

# 取手の古墳



重圈文鏡(大山西遺跡出土)



鶏型埴輪(糠塚1号墳出土)



市之代3号墳埴輪列出土状況

平成30年

2月15日(木)~

4月22日(日)

時間 午前9時から午後5時まで(入館は4時30分まで)

休館日 会期中の月曜日(ただし、2月19日(月)は開館します)

馬型埴輪(市之代3号墳出土)

## 開催にあたって

この度、第43回企画展を開催する運びとなりました。これも、日ごろから来館し励ましのお言葉をかけてくださる皆様のおかげと、厚くお礼申し上げます。

紀元4世紀から7世紀にかけて、各地で大規模な埋葬施設である古墳が築造されます。取手市内にも、市之代古墳群(市之代)、糠塚古墳群(上高井)、大日山古墳群(岡)という古墳時代の終盤に造られた3つの古墳群があります。これら3つの古墳群は、日ごろ注目されることは少ないですが、伝説などとも相まって地域の人たちに長い間大切に守り伝えられてきました。

今回の企画展では、この3つの古墳群を中心に、古墳時代の市内の遺跡の知られざる魅力を広く皆様に紹介していきたいと思っております。この企画展が、日ごろはひっそりと息づいている地域の遺跡とそこに生きた人びとの生活に思いを馳せるきっかけとなれば幸いです。

最後になりましたが、今回の企画展の開催にあたりご協力をたまりました関係各位にたいしまして、深甚なる謝意を表して開催のあいさつとさせていただきます。

平成30年2月

取手市埋蔵文化財センター

### 講演会

演題 取手の古墳時代を語る

講師 諸星政得先生(取手市文化財保護審議会会長 茨城県考古学協会顧問)

日時 3月10日(土) 午後1時30分～3時00分(開場は午後1時)

会場 福祉交流センター 多目的ホール(取手市役所敷地内:取手市寺田5139番地)

定員 150名(当日受付順)

### 考古学講座

第1回「市之代古墳群—その発掘調査から—」

日時 3月3日(土) 午後1時30分～午後3時

会場 埋蔵文化財センター 2階 講座室

定員 40人(当日受付順)

講師 埋蔵文化財センター職員

第2回「将門伝説に守られる遺跡—大日山古墳群を中心として—」

日時 4月14日(土) 午後1時30分～午後3時

会場 埋蔵文化財センター 2階 講座室

定員 40人(当日受付順)

講師 埋蔵文化財センター職員

### 展示説明

○午前11時と午後2時 2月17・18日、3月11・31日、4月1・15日

○午前11時 3月3・10日、4月14日 予約不要、当日展示室においてください。

### 同時開催『ふるさと探訪』刊行記念講演会

演題 世界遺産富岡製糸場と取手

講師 速水美智子先生(速水堅曹研究会代表)

日時 3月17日(土) 午後1時30分～3時00分(開場午後1時)

会場 福祉交流センター 多目的ホール(取手市役所敷地内)

定員 150名(当日受付順)

### 例言

1. このパンフレットは、平成30年2月15日から4月22日まで開催される取手市埋蔵文化財センター第43回企画展「取手の古墳」にともない、発行されたものです。
2. この企画展の企画とパンフレットの執筆・編集は、当センター職員の本橋弘美が担当し、その他職員の協力を得ました。
3. この企画展の開催にあたり、次の方々からのご協力とご助言をいただきました(敬称略)。記して深謝の意を表します。

公益財団法人 茨城県教育財団 延命寺 広瀬篤 諸星政得 斎書房

### 主な参考文献

『取手市史』通史編Ⅰ・原始古代(考古)編 『取手市史』通史編Ⅰ 『藤代町史』通史編 『取手市遺跡分布調査報告書』 『市之代古墳群第3号墳発掘調査報告』 『大渡Ⅰ遺跡発掘調査報告書』 『茨城県取手市北中原遺跡発掘調査報告書』 『取手市内遺跡発掘調査報告書4』 『取手市内遺跡発掘調査報告書7』 『取手市内遺跡発掘調査報告書12』 『茨城県史』原始古代編(茨城県) 『茨城県教育財団文化財調査報告第123集 取手都市計画事業下高井特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 大山Ⅰ遺跡』(財団法人 茨城県教育財団) 『茨城県教育財団文化財調査報告第143集 取手都市計画事業下高井特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 東原遺跡 前畑遺跡 柏原遺跡』(財団法人 茨城県教育財団) 『茨城県教育財団文化財調査報告第185集 取手都市計画事業下高井特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 大山Ⅰ遺跡2』(財団法人 茨城県教育財団) 『霞ヶ浦の首長—古墳に見る水辺の権力者たち—』(霞ヶ浦町郷土資料館) 『茨城の形象埴輪—県内出土の形象埴輪の集成と調査研究—』(茨城県立歴史館)

## 古墳が造られる前の取手

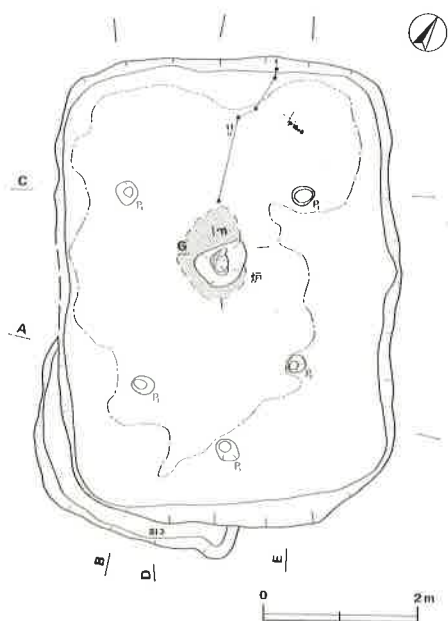
取手市内では、現在90カ所余りの遺跡が確認されています。しかし、市内では長らく弥生時代の遺跡は確認されませんでした。

1996年、東原遺跡（ゆめみ野）と柏原遺跡（ゆめみ野）の発掘調査によって、はじめて弥生時代の住居跡が確認されました。東原遺跡では、2軒の住居跡が確認され発掘調査されました。それぞれ5.7m×5m、6.0m×4.4mの隅丸長方形の竪穴式住居跡で、弥生時代後期後半（紀元3世紀後半）の弥生土器が出土しています。

また、柏原遺跡では、やはり弥生時代後期後半の4.3m×4.0mの隅丸方形の竪穴住居が1軒確認されています。

両遺跡とも、古墳時代直前の取手に現れた唯一の弥生時代の痕跡です。

弥生時代の遺跡の分布が少ないのは、取手市だけでなく、守谷市や利根町、千葉県我孫子市など、周辺地域に共通する特徴です。



東原遺跡 第2、3号住居跡平面実測図



柏原遺跡 第1号住居跡出土弥生土器

## 取手に作られた古墳

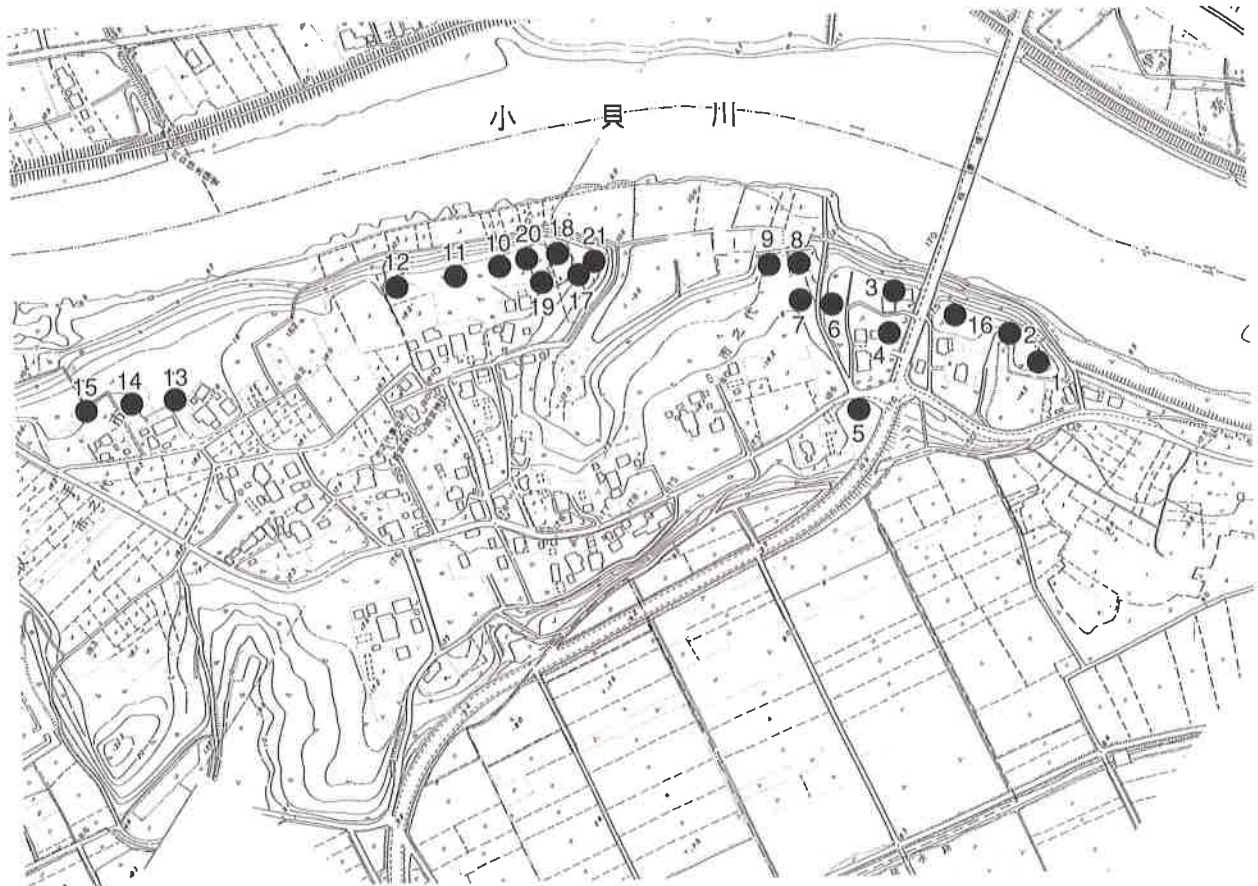
古墳が造られたのは畿内など西日本では3世紀終わりから、茨城県では4世紀の中ごろから古墳が現れますが、5世紀に入り、舟塚山古墳（石岡市）や三味塚古墳（小美玉市）など100mを超える大型の前方後円墳が築造されます。やがて、6世紀に入ると前方後円墳が小型化し、たくさん作られるようになります。

市内にある市之代古墳群の3号墳や糠塚古墳群の1号墳も、6世紀後半に作られた小型の前方後円墳です。

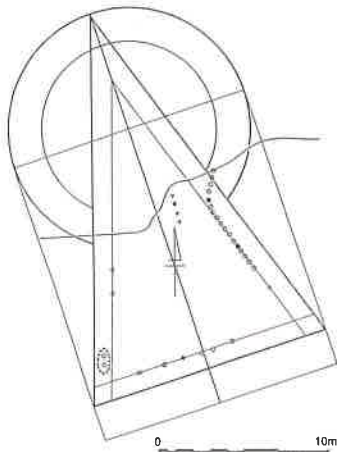
### 1. 市之代古墳群 —市内最大の古墳群—

小貝川の右岸の標高18mの台地上に2基の前方後円墳と19基の円墳が確認され、そのうち9基が調査されています。

3号墳は、台地の端にあり、東側は台地の崖に接しています。全長約20m、後円部約13m、前方部約12mの前方後円墳で、小貝川の橋の付け替えに伴い、1977年に一部が発掘調査されています。後円部は工事によりほとんど調査できず、埋葬部である主体部は確認できませんでした。しかし、前方部では、前方部を縁取るように円筒埴輪と朝顔形埴輪が規則的に並ぶ埴輪列の一部が確認されました。また、前方部の南端には円筒埴輪を2つ連ねた埴輪棺も確認されています。古墳には、よく主体部以外に、追葬が行われることがあります。この埴輪棺も追葬と思われる。



市之代古墳群分布図



3号墳墳丘復元図



3号墳埴輪棺出土状況



17号墳～21号墳発掘調査の様子



3号墳出土 馬型埴輪

6号墳は、台地の縁よりやや南方、台地中央よりに位置する径10mの円墳です。大正8年（1919）に古墳にあった大木を切り倒したところ、石棺が見えたという話が伝えられています。2003年に発掘調査を実施し、主体部も確認できました。板状の石を箱型に組み合わせた箱型石棺は、すでに開封され、土砂が流れ込んでいました。石棺の中には少なくとも9人分の人骨片と副葬品のメノウ玉、ガラス玉などが検出されました。

8号墳・9号墳は3号墳と同じく台地の縁に位置し、1984年に発掘調査が実施されています。9号墳は径推定13mの円墳で主体部は残っていませんでした。8号墳は径推定14mの円墳で、凝灰岩の横穴式石室が確認されました。主体部には耳輪や直刀の一部が副葬品として出土しました。

1997年には公園造成の事前発掘調査により、墳丘が残っておらず、それまで存在が確認されていなかった17号墳から21号墳の5基の円墳の存在が明らかになりました。この5基の円墳は、古墳の周りにめぐらせる周溝によって確認されたのみで、主体部はすべて残っていませんでした。



6号墳箱式石棺 出土状況



6号墳出土 ガラス玉・メノウ玉

## 2. 糠塚古墳群

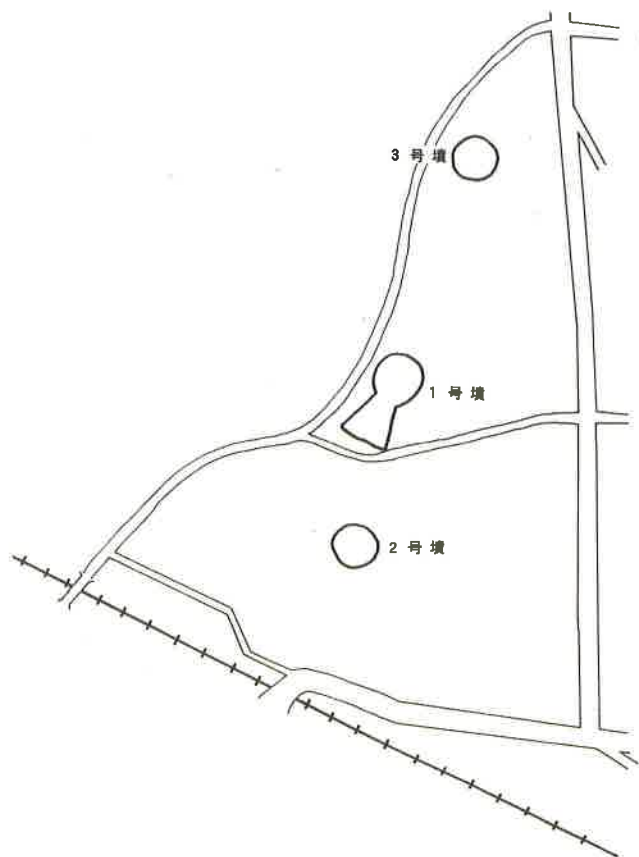
糠塚古墳群は、関東鉄道常総線稲戸井駅の北約100mの、小貝川から広がる沖積低地から入り込む谷津に面した標高約22mの台地上に位置し、市街地にあるため、現存しているのは、前方後円墳の1号墳だけです。そのほか、2号墳と3号墳は、発掘調査によってその存在が確認された円墳です。現在、この3基の古墳が確認されていますが、今後の発掘調査によっては、新たな古墳の跡が確認されるかもしれません。

糠塚古墳群で最初に発掘されたのは2号墳で、1986年に発掘調査された際に、周溝と主体部が発見され、その存在が明らかになりました。2号墳は径16mの円墳で、主体部は木棺葬で、わずかに粘土が確認されたただけでした。木棺内からは、副葬品の直刀など鉄製品が出土しました。

1号墳と3号墳は、1998年に発掘調査が実施されています。3号墳は、2号墳と同じく、1998年の発掘調査で周溝が確認されて発見されました。3号墳は、径12mの円墳で、主体部は残っていませんでした。しかし、周溝やその周辺から、墳丘上で行われた祭祀に使われたと思われる須恵器の平瓶（へいべい）が出土しています。また、笠をかぶった男性の埴輪や馬型埴輪の一部など多数の埴輪片が出土しました。

1号墳は、糠塚古墳群で唯一現存している古墳です。そこで、1998年の調査も、古墳を後世まで残すために、墳丘の一部と目視で確認できない周溝を探す発掘調査を実施しました。1号墳は、全長33.5m、前方部幅18.8mの前方後円墳で、主体部は未調査です。

1号墳からもたくさんの埴輪が出土し、武人や農夫を表した人物埴輪だけでなく、市内で唯一の鶏型埴輪と盾を表した盾型埴輪が出土しました。



糠塚古墳群分布図



糠塚2号墳主体部



3号墳出土 平瓶



1号墳出土 武人埴輪

1号墳出土 鶏型埴輪



糠塚1号墳(上高井)

### 3. 大日山古墳群 —伝説とともに守られる古墳群—

大日山古墳群は、市之代古墳群と同じく、小貝川右岸の台地上にあります。茨城県指定史跡の大日山古墳は円墳と伝わっており、小貝川の沿岸に沿う標高20mの台地の東端に位置します。大日山古墳群は、地元では古くから平将門の伝説と強く結びつき、大日山古墳は、平将門の愛妾桔梗御前が葬られていると伝えられていて、現在墳頂には岡神社の社殿がまつられています。1987年、藤代町史編さん事業の一環として大日山古墳の周溝を確認し、形状と規模を確定するための発掘調査が実施されました。しかし、その発掘調査では、周溝を確認することができず、形状や規模はよくわからないままです。

大日山古墳の北方約200mにある仏島山古墳は、現在、台地下の標高8mの位置にあり、塚状に丸い高まりが残っています。しかし、仏島山古墳の敷地内にある仏島山記念碑（仏島山之記碑）や『藤代町史』通史編に、明治28年（1895）と昭和8年（1933）に地域で行われた土木工事のために墳丘の土取りをして、その後に石棺を組み直して塚を復元したと記されています。2008年に、仏島山古墳の遺存状態を確認するために発掘調査を実施しましたが、残念ながら、記録通り古墳の本来の土層を確認することができませんでした。

しかし、明治28年と昭和8年の土取りにより出土した多数の埴輪や副葬品は、当時、皇室博物館に納めたとあり、現在も国立博物館に所蔵されています。また、延命寺（岡）にも仏島山古墳出土と伝わる埴輪が保管されています。石棺や埴輪が出土していることから、仏島山古墳は古墳であることは間違いありません。

『藤代町史』通史編によると、大日山古墳群には前述の大日山古墳と仏島山古墳のほか、駒形古墳と言われる円墳と、すでにいなくなった権現山古墳と数基の古墳があったとされていますが、現在確認できるものはなく、大日山古墳群で現存しているものは、大日山古墳1基のみとなります。

大日山古墳だけでなく、仏島山古墳と大日山古墳周辺には、平将門伝説が多く伝わっています。大日山古墳の北側に平らに開けた土地がありますが、ここは地元では前述の桔梗御前の居館の朝日御殿跡だと言われています。また、仏島山古墳は将門の武器を納めた塚と言われており、将門本人の墳墓だという言い伝えもあります。

仏島山古墳は、埴輪や石棺を擁していたことが分かっていますので、大日山古墳群と平安時代の平将門とは時代に齟齬が生じますが、現在でもその伝説を地元の人たちが大切に守り伝え、これからも後世に語り継がれていく、文化財保護のひとつの理想的な形ではないでしょうか。



茨城県指定史跡 大日山古墳（岡）  
墳頂には岡神社が祀られています。



復元された仏島山古墳（岡）

## 古墳時代に暮らした人びと

取手市内の古墳は、6世紀後半になってから造られますが、人びとはそれより以前の古墳時代前期の4世紀から20棟以上の住居を擁する大規模な集落を形成しました。これは、集落に長期間にわたって生活したということです。

大渡遺跡（野々井）は、利根川からの大きな谷津が台地を取り囲むように入り込んでいる標高23mの台地上にあります。1980年～1981年に比較的広範囲な発掘調査を実施し、古墳時代前期の4世紀前半から後半にかけての住居跡を15棟発掘調査し、その後も引き続き発掘調査が行われ、現在21軒の住居跡が調査されています。1980・81年に発掘調査されたI-10号住居跡は、7.2m×5.2mの大型の隅丸長方形の竪穴住居で幅0.5mのテラスが内側を1周しています。住居の中からは古墳時代の初期段階の、棒状浮文や網目燃糸付きの壺型土器が出土しています。

大山I遺跡（ゆめみ野）は、北と西に谷津が入り込んでいる標高22mの台地の北東端に位置しています。1996年と2000年に遺跡のほぼ全域の発掘調査が実施され、古墳時代前期後半の4世紀後半の住居跡が51軒発掘調査されています。発掘調査によって、北側の斜面地を中心に集落が形成されていたことが分かり、現在、発掘調査されている市内の古墳時代の集落跡では、最大規模です。

大山I遺跡では、集落北端の第37号住居跡の床面から、径7.5cmの重圏文鏡が出土しています。この銅鏡は、祭祀に使われたと思われるが、集落の最も低地である北端の住居跡から出土しており、集落から下った低地に開拓したと言われる水稻農耕との関わりが示唆されるのではないのでしょうか。

市内では、そのほか、稲向原II遺跡（稲）から古墳時代中期の土器が出土していますが、この稲向原II遺跡をはじめ、上記2遺跡以外は、発掘調査がほとんど実施されていません。

古墳群を築造した古墳時代後期の集落跡は残念ながら、現在市内では発見されておらず、古墳を作った人びとの生活圏がどこにあったのかは、今後の調査を待たなければなりません。



大渡遺跡I-10号住居跡出土 壺型土器(土師器)



大山I遺跡第37号住居跡出土 重圏文鏡

取手市埋蔵文化財センター第43回企画展

取手の古墳

平成30年2月15日～4月22日

編集／発行 取手市埋蔵文化財センター 制作／印刷 (有)石山宣伝研究所